

校正ノート No.9

2015.7

ありがとう
80周年に感謝



晃南印刷株式会社
プリプレス部
校正担当/中里 (内線 301)
制作/竹沢 (内線 305)

熟字訓

読み物はその対象とする読み手の便宜を考えて、適宜漢字に振り仮名(ルビ)を振ることが望ましい。少年マンガ誌は総ルビ(現れる漢字すべてにルビを振る)になっている。また、普通の読みでなく、ここは特別にこう読んでほしい、というときにルビを振る例があり、字数の限られる俳句・短歌等の原稿にルビ付きの文字がよく見られる。

ルビの振り方には二通りあって、

1. 対字ルビ=モノルビ



漢字1文字ごとに振る。

例 こうせい にほんご こうおつへい うつく
校正、日本語、甲乙丙、美しい など

モノルビ

2. 対語ルビ=グループルビ



熟語・複数語に対して振る。

例 みそか きさらぎ やぶさめ
晦日、如月、流鏑馬 など

グループルビ

熟字訓とは、この2.のグループルビが使われるように、漢字を複数の語単位で訓読みを当てたものを言う。単字に分解しても読みと合わなくなってしまう。七夕は「たなばた」と読むが、「七」にも「夕」にも「たなばた」に対応できる読みがないし、「たなばた」を分けることもできない。熟字訓は、主なものが常用漢字表・付表にリストアップされている(123語)。

そこから例を挙げると、

あずき おとな かぐら かわせ きのう きょう さつき さみだれ しぐれ しない
小豆、大人、神楽、為替、昨日、今日、五月、五月雨、時雨、竹刀、
しわす すもう だし ついたち つゆ でこぼこ なんだれ のりと ふぶき へた みやげ
師走、相撲、山車、一日、梅雨、凸凹、雪崩、祝詞、吹雪、下手、土産、
もみじ やまと やよい
紅葉、大和、弥生 など

昭和の読み物によく見られた(という印象があるが、そうでもないか)「閑話休題」を「されはさておき」と訓ずる仕方も熟字訓だが、江戸時代から行われていたとか。

言の葉、ひらり

同音異義語・同訓異義語の使い分け、似た言葉で間違いやすい使い方等、校正中これでいいのかともややした気持で仕事を進めると後味が悪い。調べると宙に舞っていた言の葉の意味がひらりと掌に落ちて、すっきりする。

大地震 読みも揺れる

大地震を「だいじしん」と読むか、「おおじしん」と読むか。

原則は、「大」の次に漢語(音読み)がくると「ダイ」、和語(訓読み)がくると「おお」である。

例 「ダイ」大英断・大音声・大草原・大打撃・大接戦・大洪水 など
「おお」大金持ち・大酒飲み・大入袋・大通り・大売出し など

原則に照らすと大地震は「だいじしん」であるが、「おおじしん」と読む人が多いところから慣用として認め、読みが併存している。どちらとも言えない状態を読みが揺れている、と表現する。

他に慣用的な読み 「おお」大火事・大御所・大道具・大所帯・大騒動 など



7月歳時記 文月(ふみづき・ふづき)

- 2日(木) 半夏生……………梅雨の終わり、半夏(カラスビシャク)という毒草が生えるころ
- 7日(火) 小暑・七夕……………どんどん暑くなっていく
- 15日(水) お盆……………元々は旧暦のこの日。現在は月遅れの8月15日が一般的
- 20日(月) 海の日・夏土用入り…1996年から。海の恩恵に感謝すると共に、海洋国日本の繁栄を願う日
- 23日(木) 大暑……………暑中見舞いを出し始める
- 24日(金) 土用の丑の日……………今年は、二の丑があり8月5日

- 半夏は生薬の一種、別に半夏生という植物があり、葉の半分が白くなることから半化粧とも。
- 乞巧奠(きっこうでん) 竹竿に糸をかけて裁縫や習字の上達を星に祈る中国の習わし。これが、短冊に願い事を書いて笹竹に吊るす日本の七夕の風習となっている。笹は、邪気を祓うという。

竹沢メモ

6月13日にとちぎ蔵の街美術館へ「中原淳一展」を観に行き、嬉しいことに県民の日が近いこともあり入館料無料で入れました。中原さんは戦前から活躍した画家、ファッションデザイナーなどマルチクリエイターで、女性の絵がほとんどですが瞳の画力や色使いがとても綺麗で、レトロな作品を沢山観ることができました。